

20041

コアベータ使用適正の検討

¹兵庫医科大学病院

若山 司¹、名定 敏也¹、梅原 孝好¹、山田 英司¹、大出 寛¹、中江 保夫¹、坂本 清¹

【目的】近年、冠動脈 CT が注目されているが、検査時に心拍数(以下、HR)が高くなることで時間分解能や空間分解能の影響により画質が低下し、的確な診断が困難となる場合がある。そのため、HR を適切に保ちながら撮影する必要があるが、当院では諸事情により検査前投薬をせずに撮影を行っている。そこで今回、速効性と調節性に優れたコアベータを使用するにあたり、冠動脈 CT の現状把握とコアベータ適応症例について検討する。【方法】2011 年度冠動脈 CT を行った 283 例に対して施行時の HR を 6 段階 (≤ 60 , $61 < HR < 65$, $66 < HR < 70$, $71 < HR < 75$, $76 < HR < 80$, $81 \leq$) に分類し、画質を 5 段階 (Excellent, Good, Fair, Poor, Bad) 評価した。また、冠動脈 CT 施行後に CAG を行った 42 例について感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率を評価した。【結果】HR が高くなるにつれて画質は劣化する傾向があった。CAG に対する冠動脈 CT の診断能は、Excellent, Good, Fair で評価された症例では大きな差は見られなかった。また、HR75 以下では、約 80%以上の症例で Fair 以上の画質を得ることができた。HR75 以上では診断能も低下し約 40%の症例で Poor 以下の評価となった。【結論】コアベータは HR が 75 以上の症例に使用し、目標 HR を 65 以下にすることで、冠動脈 CT の画質、成績の向上が期待できると考える。